

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 15 NO. 1

(通巻56号)

昭和63年4月20日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



© SPADEM, Paris, 1988

## デュフィ 「クロード・ドビュッシー頌」 油彩 1952年

デュフィは、生涯音楽を愛した。レガッタ、競馬、脱穀風景、花、画家のアトリエ等のモチーフとともに、オーケストラや音楽の演奏、作曲家など音楽をテーマとした作品は生涯を貫いて多い。モーツァルト、バッハ、ショパンとともにフランス人作曲家のドビュッシーを礼賛したのがこの作品だ。画面を緑と黄色の色帯で分割し、緑の額縁の中は青い静物が輝き、ピアノの上の譜面にはドビュッシーを礼賛する。この色彩の透明性と平面性・線描と装飾・白と黒の効果的な使用、これらは伝統的な日本画の性格と共通している。デュフィが長崎絵や横浜絵を勉強し、日本画用の絵刷毛を使用していた写真も残っており日本人にとって親しみ深い画家の一人だ。

デュフィは、ルノワールと同様リユーマチで手がやられ苦しんだ画家だ。だがルノワールと同じく、画面に病苦の陰など一切ない。逆に、その作品には、明るく輝く色彩、官能的な生きる喜びをたたえたりズミカルな線によって観る者の心を元気づけてくれる。この作品を描いた翌年リユーマチの薬の調合が悪く心臓発作で死去した。

みる  
(展覧会)

県民の日記念事業

特別展

デュファイ展

'88・5・14(土)〜6・19(日)

光と色彩のシンフォニー

千葉県立美術館は、千葉県出身及びゆかりの作家の作品展の開催に努めるとともに、近代美術館として、日本の近代美術、外国美術についての展覧会を多彩に開いてきました。近年「国際化」が叫ばれるなかで、外国美術作品の展覧会開催の要望が強く、本館ではこれにこたえるため、昭和五十九年以来外国展を特

別展としてとり上げ、今回のデュファイ展も、これら一連の外国展と関連し、現代美術に多大な影響を及ぼしたヨーロッパ美術の巨匠の芸術をひろく紹介するものです。近代絵画史上に大きな足跡を残したフランスの画家デュファイが、つくりあげた、明るく新鮮な色彩と軽快な線のリズムによって構成された作品の

数々を心ゆくまで御鑑賞ください。

デュファイ◆人と芸術◆

ラウル・デュファイ(一八七七一―一九五三)は、フランス北部の港町ル・アーヴルに9人兄弟の長男として生まれました。一家は決して裕福ではなかったが、家族全員が音楽に親しむ芸術的雰囲気のみちており、彼はやがて家計を助けるためコーヒー輸入商社に勤め、夜は市立美術学校で絵を学びます。はじめ、アカデミックな手法で自画像や家族の肖像を描いたり、ル・アーヴル、オンフルール、フアレーズなどの景色を写生して制作しておりましたが、一九〇〇年、ル・アーヴル市の奨学金でパリに出て国立美術学校に入

学、レオン・ボナの教室で学び、印象派の手法に影響を受け、パリやノルマンディーの

海岸風景を描き、一九〇一年、ル・サロンに「ル・アーヴルの夕暮れ」を出品します。一九〇五年、サロン・ドートンヌでマチスの作品を見てフォーヴィスムにかたむき、彼の画面には鮮明な色調、単純なフォルムが力強さとなってあらわれ、個展等で作品を発表するとともに、セザンヌにも興味を持ちはじめます。

デュファイの画風が次々と変わってゆくため、画商から見放され彼は生活に窮し、アポリネールの詩集の挿絵用に木版画を制作したり、リヨンの絹織物のテキスタイル・デザインを引受たりしますが、彼にとつてはこの経験が後の作風に大きな影響を及ぼすのです。

デュサンはより軽快になり、色彩は明るくなり、セザンヌ風の重い色調、厳密な画面の構成は影をひそめ、柔らかな画風が発展します。

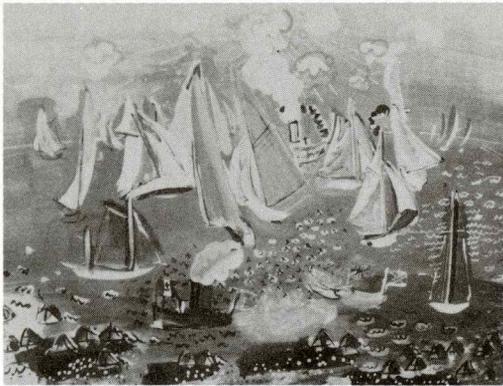
デュファイはその後、ヨーロッパ各地を旅行したり、万国博電気館大パネルの制作、タピストリーの新技法を考案するなど多彩な芸術活動をくり広げ、明るく新鮮な色彩と軽快な線のリズムによって、独自の画風を確立しました。「優しく逸乐的なすべてのものへの愛」を歌い上げようとした彼の願いは、光と色彩のシンフォニーとなって、作品に息づいているのです。



「ニースの花火と棧橋プロムナードのカジノ」



「カルダス・デ・モンブイの中庭の裸婦」



「イギリス連隊のル・アーヴル巡視寄港」



「アネモネ」



「田舎のレストラン」

## 本展の内容

この展覧会では、南フランスのニース美術館の所蔵作品を中心に、パリ市近代美術館をはじめとしてフランス、ドイツ等の公立美術館及び個人所蔵家などの協力、及び外務省、文化庁、フランス大使館の後援により、デュファイの多岐にわたる芸術活動を総合的にとらえるため、油彩、水彩、素描、タピストリー、テキスタイル・デザインなど一〇〇余点を展覧します。このう

ち約三〇点は日本初公開の作品です。

### — 主な出品作品 —

#### ◆油彩

「風景」「夕暮れのル・アーヴル港」「ブローニユの森にて」「ヴァンス」「魚と果物のある静物」「ル・アーヴルの水の祭り」「デュファイ夫人の肖像」「カルダス・テ・モンパイイの中庭の裸婦」「ニースの花火と棧橋プロムナードのカジノ」「クロード・ドビュッシー頌」「浴女」「大音楽会」「黄色い飾り机と

二つの窓」「麦畑の東屋」「サント＝マクシムの大きな木」「ヴェニスのアポロ」「ヘンリーのレガッタ」「貝殻を持つ裸婦」「横たわる裸婦」他。

#### ◆水彩

「イギリス連隊のル・アーヴル巡視寄港」「マヌカン」「ヴァンス、画家のアトリエ」「ブラド美術館のティツイアーノ」「ニューヨーク、水兵のパレード」「ルネサンスの城」「友人たちの夕べ」「アネモネ」「競馬」「キャンター」「エブソムの紳士、騎手と馬」他。

#### ◆素描

「船」「サン＝フランソワ広場の魚市場、ニース」「田舎のレストラン」「軍人たちの舞踏会」「コメディー・フランセーズの俳優」「泉」「音楽家」「自画像」「ル・アーヴルの海辺」他。

#### ◆タピストリー

「立像と二つの赤い花瓶」

◆テキスタイル・デザイン  
「シンコペーションのフォルム」「南瓜と果物と雲」他。

## ◇会期・入場料◇

### □会期

昭和63年5月14日(土)～6月19日(日)

午前9時～午後4時30分(入場は4時まで) 月曜休館

### □入場料

一般五〇〇円(三〇〇円) 高・大学生三〇〇円(二〇〇円) 小・中学生二〇〇円(七〇円) ( )は20名以上の団体、学校団体は割引制度あり。

6月15日の「県民の日」はすべて無料となります。

## 美術講演会

日時 6月4日(土)午後2時  
演題 「デュファイ・人と芸術―色彩とイメージの華やき―」

講師 千足伸行氏

会場 講堂(入場無料) (美術評論家)

## 美術を語る会

日時 6月18日(土)午後2時  
テーマ 「デュファイ―知性と感性のあざやかな結合―」

話題提供者 根岸茂行氏

会場 研修室(入場無料) (洋画家)

昭和63年度常設  
収蔵作品展Ⅰ期

6/28  
〜  
9/4

63年度事業案内 ①

展覧会事業

特別展

「デュフィ展」

会期 5月14日〜6月19日

内容 別掲

「石井柏亭と近代絵画の歩み

会期 9月10日〜10月16日

内容 詳細は第2号に掲載

企画展

常設収蔵作品展

会期Ⅰ 6月28日〜9月4日

Ⅱ 12月13日〜3月31日

内容Ⅰ 別掲、他は次号以降

第3回現代日本具象彫刻展

会期 2月4日〜2月26日

内容 詳細は第4号に掲載

笹岡了一展―房総の美術家シリーズ(18)

会期 2月14日〜3月12日

内容 詳細は第4号に掲載

第12回千葉県移動美術館

会期①館山市コミュニティセンター

②袖ヶ浦町立根形公民館

11月17日〜11月30日

12月3日〜12月14日

優れた美術作品を広く県民に紹介するため2会場で開催。

内容

優れた美術作品を広く県民に紹介するため2会場で開催。

内容

大石隆子、小暮青風、種谷扇舟等。

○版画

浜口陽三、瑛九、牛玖健治、

深沢幸雄、池田満寿夫、池田良二、星襲一等。

この他、新収蔵作品コーナーとして前年度収蔵した、島多訥郎、立石秀春(日本画)、足立源一郎(洋画)、高田博厚、柳原義達、浦野八重子、関正司(彫刻)、津田信夫、三村比呂志、堀口光彦(工芸)等の作品を展示します。

浅井忠コーナーでは、「フ

武、鈴木実、山本正道等。

○工芸

香取秀真、津田信夫、香取正彦、大須賀喬、宮之原謙、土肥刀泉、秋山逸生、藤田喬平等。

○書

鱸松塘、石井雙石、浅見喜舟、

ギュスターヴ・クルルベ「雪の中の小鹿」

後藤純男「山門雨後」

主な展示作家は次のとおりです。

○日本画

吉岡堅二、東山魁夷、小野具定、渡辺学、加倉井和夫、関主税、後藤純男等。

購入

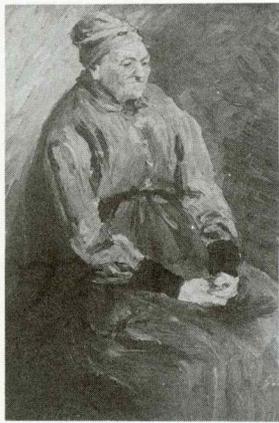
新収蔵作品紹介

三村比呂志作「想曲」(漆芸)

(前号追加分)

浅井忠「農婦」

浅井忠



63年度事業案内 ②

普及事業

当美術館では、みる・かたる・つくる という三つの柱をたてて運営をしていることはみなさま御存知のとおりです。今年も美術作品の鑑賞と合わせて講演会や美術を語る会などを行い、広く美術に親しみ理解を深めていただきたいと思います。

また、県民アトリエの実技室では日本画・洋画・彫刻・工芸・書道などニーズにこたえて多彩に展開し、つくる楽しさをできるだけ多くの方々に味わっていただけるよう計画しております。

友の会につきましても、昨年は会員数約九〇〇名余りで、年々充実をみせております。情報資料室では、美術図書の公開や美術に関する資料について質問や相談に応じますので、みなさまの御利用をお待ちしております。

美術講演会

美術普及事業の一環として

美術に関する理解を深める場として特別展に関連させ、本年度は2回実施します。

美術を語る会

特別展・企画展・実技講座と関連させながら、みる・かたる・つくるを総合的に深めるため本年も定期的に10回実施します。

期日	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	5月28日(出)	6月18日(出)	7月9日(出)	8月27日(出)	9月3日(出)	9月24日(出)	11月12日(出)	1月21日(出)	2月11日(出)	3月4日(出)

実技講座

「みる・かたる・つくる」という事業の一環として、経験者を対象として美術館実技講座を実施します。また、美術館友の会主催の講座として初心者を対象として入門講座を実施します。

美術館実技講座

日本画・版画・彫刻(1期)・洋画・書芸(3期)・陶芸・デ

ッサン(2期) (各4日〜12日間)

合計 7種、13期、116日

友の会実技講座

日本画・彫塑・版画・陶芸・七宝・金工・書芸・てん刻(各1期)・洋画(3期)・デッサン(2期) (各2日〜7日間)

合計 10種、13期、65日

情報資料室

情報資料室は、美術に関する情報提供の場として、図書・録音・雑誌・新聞など備えています。その他の資料としては、諸美術研究施設(美術館・博物館・大学ほか)の年報・館報・研究紀要・収蔵品目録類や、情報提供のための各種資料・カード類を作成し、配備しております。

また、各種資料のバックナンバーは、書庫にありますので、係にお聞きください。その他、いつでも問い合わせに応じます。あらかじめ、お電話をいただいても結構です。開室は、祝日を除く毎週火〜金曜日の12時半〜4時半です。なお、複写・貸出しは、しておりませんので御了承ください。

いっあんない・団体展

- 第12回鳳聲会書作展 4月26日〜5月1日
- 武蔵野美術大学校友会千葉県支部展 4月26日〜5月1日
- 第15回千葉新協展 4月26日〜5月1日
- 第8回千葉美術工芸展 4月26日〜5月8日
- 第14回歩会彫刻展 4月26日〜5月8日
- 第28回白扇書道会展 5月3日〜5月8日
- 第19回表美展 5月3日〜5月8日
- 第25回全日本総合書道大展覧会 5月10日〜5月15日
- 第11回千葉展 5月10日〜5月15日
- 第12回墨の県展 5月17日〜5月22日
- 第33回二科会千葉支部展 5月24日〜5月29日
- 千葉二紀展 5月24日〜5月29日
- 第28回千葉市アマチュア美術会展覧会 5月31日〜6月5日
- 第14回猿展 5月31日〜6月5日
- 第10回新槐樹社千葉支部展 5月31日〜6月5日
- 第11回千葉一陽展 6月7日〜6月12日
- 第15回千虹会日本画展 6月7日〜6月12日
- 第13回関東全展 6月7日〜6月12日
- 千葉幼児美術展 6月14日〜6月19日
- 第3回日本画四季展 6月14日〜6月19日
- 第35回千葉県書道協会展 6月21日〜6月26日
- 第2回千葉水彩展 6月21日〜6月26日
- 第32回千葉県小・中・養護学校児童生徒書写展覧会 6月28日〜7月3日
- 第6回明日を拓く教育美術展 6月28日〜7月3日
- 第17回千葉市勤労者美術展 6月28日〜7月3日
- 第11回精鋭展 6月28日〜7月3日
- 第20回千葉市水墨画同好会連合会展 7月5日〜7月17日

美術館実技講座

経験者を対象として、基礎的な技法をはじめ、より幅広い表現、創作について研修します。

◆陶芸講座(1)

期日 5月10・11・31、6月14・16、7月5・12・14・26、8月5日  
講師 横山光ノ介氏  
縮切 4月26日  
〈10日間〉

◆彫刻講座(石彫)

期日 5月12・14・17・19・20・21・24・25・26・27日  
講師 中島幹夫氏  
縮切 4月28日  
〈10日間〉

◆デッサン講座(1)

期日 5月31、6月1・2・3・7・8・9・10日  
縮切 5月17日  
〈8日間〉

※美術館主催のデッサン講座は参加者の自主研修講座となります。

◆日本画講座

期日 6月21・22・23・26・28・29・7月1・2・3日  
講師 関主税氏  
縮切 6月7日  
〈10日間〉



書芸講座

ごあんない・実技講座

◆書芸講座(1)〈近代詩文書〉

期日 7月5・6・7・8日  
講師 千代倉桜舟氏  
縮切 6月21日  
〈4日間〉

◆洋画講座(1)

期日 7月12・13・14・15・19・20・21・22・26・27・28・29日  
講師 太田洋三氏  
縮切 6月28日  
〈12日間〉

◆版画講座〈銅版画〉

期日 7月8月  
定



版画講座

友の会実技講座

初心者を対象に、基礎的技法や用具の取り扱い方などを研修します。

◎デッサン入門講座(1)

期日 5月13・14・15日  
〈3日間〉

◎洋画入門講座(1)

期日 6月22・23・25・26・28・29日  
講師 五十嵐光昭氏  
縮切 4月29日  
〈6日間〉

◎七宝焼入門講座

期日 7月9・10日  
講師 日和田利正氏  
縮切 6月7日  
〈2日間〉

◎市川寿賀子氏

期日 6月25日  
講師 市川寿賀子氏  
縮切 6月25日  
〈4日間〉



七宝焼入門講座



書芸入門講座

◎デッサン入門講座(1)

期日 8月2・3・4日  
講師 根岸茂行氏  
縮切 7月19日  
〈3日間〉

◎陶芸入門講座

期日 8月24・25・26、9月16・28日  
講師 鎗田和乎氏  
縮切 8月10日  
〈5日間〉

講師 鎗田和乎氏  
縮切 8月10日  
〈時間〉美術館 0時30分、4時30分(4時間) 友の会 10時、4時(5時間)  
〈申し込み〉各講座とも往復はがきに、希望講座名・住所・氏名・年令・電話番号を明記のうえ、美術館普及班(友の会は友の会事務局)まで。  
なお、定員を越えた場合は抽選となります。

※都合により日程を変更する場合があります。

日誌抄

- 2・29 大規模地震対策訓練
- 3・17 第三回美術館協議会
- 4・1 臨時休館(4・25まで)
- 4・1 辞令交付
- 4・14 定期監査

職員異動

昭和63年4月1日付で、次の職員が異動しました。

◆転出者

- 保科 昌弘 (副館長↓房総のむら副館長)
- 森田 保 (副館長↓中央図書館副館長)
- 高村 照夫 (文化財主事↓椿森中学校教頭)
- 岩瀬 隆司 (副主査↓手賀沼下水道事務所副主査)
- 一杉 徹 (主任主事↓文化課副主査)

◆転入者

- 金親 道生 (高校教育課主幹↓副館長)
- 池田 伊予 (越智中学校教諭↓研究員)
- 加藤貞美治 (手賀沼下水道事務所副主査↓副主査)
- 豊田 浩昌 (新規採用↓主事)